

古川高等学校

校訓 質実剛健 学問尊重 自主自律



1 基本データ

創立：明治30年
課程・学科：全日制課程・普通科
生徒数：704名（男401名/女303名）
所在地：〒989-6155
大崎市古川南町二丁目3番17号
TEL：0229-22-3034
FAX：0229-23-4621

ホームページアドレス：
<https://furuko.myswan.ed.jp/>
電子メールアドレス：
furuko@od.myswan.ed.jp
主な交通機関
JR東北新幹線・陸羽東線 古川駅下車 徒歩15分

2 学校の特徴

キャッチフレーズ

古高の歴史に新たなページを刻む

互いに個性を尊重し切磋琢磨する古高生
学習・部活動・学校行事に自主的に取り組む古高生
高い志をもち意欲的に取り組む古高生

(1) 学校の概要(沿革、環境、施設等)

明治30年に宮城県尋常中学校志田郡立分校として創立されて以来、第三中学、古川中学を経て古川高校となり、平成29年に創立120周年を迎えました。創立以来、大崎地方の教育・文化の中心として有為な人材を世に送り出し、名実共に「仙北の雄」と称せられる歴史と伝統を誇っています。

自由闊達な校風で、校章の由来となっている「蛍雪の功」の故事に倣って生徒は日夜、「質実剛健」「学問尊重」「自主自律」の校訓の下で文武両道に励んでいます。

校舎の全面耐震工事が平成20年に完了し、令和3年には普通教室にもエアコンが設置され、明るく快適な環境で学習できます。また、第二体育館、新体育館が新築され、創立100周年記念時には凌雲文化センターが、平成25年度にはスクールカラーを基調とした南校舎(普通教室棟)が新築されました。

学校敷地は、陸羽東線および東北新幹線古川駅から徒歩約15分の交通至便の市内中心部にあり、心とませる桜の古木や、歴史と伝統をしのばせるヒマラヤ杉、ケヤキ等の大樹に囲まれた閑静な勉強環境です。

令和6年度にはコミュニティ・スクール制度を導入し、地域の方々との連携を通して現代社会の課題について学び、社会に貢献できる人材の育成に取り組んでいます。

(2) 教育方針

清潔にして健全な品性と学業を尊重する気風とを養い、自主自律の精神を持って自発的に行動できるような豊かな人間を育成するために、以下の3項目を教育目標に掲げています。1 健全な心身の育成 2 真理の探究 3 主体性の確立

(3) 教育課程の特色

授業は1時限45分7時限で行っています。

- (1) 1学年は共通科目を履修し、特に国語・数学・英語の3教科には十分な時間をかけて学習できるように配慮しています。
- (2) 2学年では、選択した科目に応じて文系・理系クラスでの授業を展開します。1学年で学習した内容を更に発展応用させ、安定した学力の定着を図ります。
- (3) 3学年では、多様な進路希望や、多彩な大学入学選抜に対応できるように、一人ひとりにきめ細かく対応できる選択科目を開講しています。
- (4) 授業は、夏季冬季の長期休業を短縮して授業日数を増やし、基礎基本の理解から重要事項の定着まで、丁寧に系統的に進めています。総合的な探究の時間では、地域と連携しながら社会の課題について取り組み、探究活動を通して進路について考える機会を設けています。3学年においては、年間を通じて課外講習(0時限、8時限)を行い、学力伸長と実力の養成に努めています。

(4) 行事・生徒会活動・部活動

生徒の9割以上が大学進学を目標とした学業面の成長に加えて、調和のとれた人間性の育成を目指しており、部活動や生徒会活動もたいへん活発です。また、企画や運営においても生徒の自主性や意見が尊重されており、一人ひとりが自分のやりたいことや個性を発揮できる自由で伸び伸びとした校風です。主な行事としては、対築館高校定期戦(4月)、船形山登山(5月)、古高祭(7月)、体育祭(9月)などがあります。

<令和6年度主な部活動の成績>

今年度の古高は、県総体や上部大会において活躍することができました。

ソフトボール部男子 4年ぶりとなる県大会制覇、東北大会準優勝、インターハイ出場を果たしました。県新人でも準優勝し、東北大会でも第3位と活躍しました。

陸上競技部 県総体では男子400m優勝、女子走り高跳び2・3位、男子400mR3位、男子110mH3位、男子三段跳び3位、女子やり投げ6位でいずれも東北大会出場、さらに東北大会でも男子三段跳びで6位、女子走り高跳び

3・6位入賞を果たしインターハイに出場しました。県新人では女子走り高跳びで優勝し、東北大会でも3位入賞しました。

文芸部 宮城県高校文芸コンクール俳句部門優秀賞を獲得し、7年度の全国総文祭出場が決まっています。また、北海道・東北文芸大会に8名が出場しました。

○第65回 対築館高校定期戦：
勝利(9勝6敗)

通算 古川高校44勝VS築館高校17勝

(5) 卒業生の進路状況

進路一覧(過去3年間、進学者・就職者数)

進路	R6	R5	R4
国公立大学	94	87	107
国公立短大	0	1	1
私立大学	116	109	84
私立短大	1	5	2
専各学校	6	12	12
就職	1	4	7
その他	10	11	11
卒業生計	228	229	224

主な進路先(令和7年3月卒業生)

()内は人数 ※(1)は省略

<国公立大学>

東北大(7)、宮城教育大(7)、帯広畜産大、弘前大、岩手大(17)、秋田大、山形大(13)、福島大(3)、茨城大(3)、筑波大、宇都宮大(3)、埼玉大、千葉大、東京外国語大、東京学芸大、新潟大(2)、信州大、静岡大、釧路公立大、青森公立大、秋田県立大(3)、秋田公立美大、岩手県立大(4)、山形保健医療大、宮城大(8)、高崎経大(6)、長岡造形大、静岡県立大、高知県立大

<私立大学>

酪農学園大、東北学院大(20)、東北工業大(4)、東北福祉大(11)、東北医科薬科大、東北芸術工科大(2)、宮城学院女子大(7)、尚絅学院大、仙台大、東北医科薬科大(5)、白鷗大、國學院大、明治大、立教大、青山学院大、中央大(2)、法政大(2)、東京理科大、東京農業大(2)、工学院大、獨協大、獨協医大、フェリス学院大(2)、神奈川大、国際医療福祉大(2)、大東文化大、明治学院大、同志社大、立命館大、他

3 学校魅力発信

(1) 本校生徒の活躍 (令和6年度)

今年度の古高も、県総体や上部大会において活躍することができました。

ソフトボール部男子は、県で優勝し、東北大会3位、インターハイ出場と大いに活躍することができました。陸上競技部は男子の三段跳び、女子の走り高跳びでインターハイ出場を果たしました。

現在は、各運動部が支部総体、県総体での入賞を目指し、日々活動に励んでいるところです。

文化部も健闘していて、文芸部が次年度の全国総文祭出場を決めています。

(2) 学校三大行事

定期戦 (対築館高校)

コロナ禍も収束し、昨年度より、開会式から通常開催となった第65回大会。あいにくの前日の雨の影響で4月25日に築館高校体育館で両校全校生徒が集い、白熱した応援合戦が繰り広げられました。競技は全15種目(うち3種目は事前に実施)で行われ、両校の意地とプライドをぶつけ合った、まさに激戦が繰り広げられました。両校ともに非常に厳しい応援練習を乗り越えて当日を迎えました。昨年度は古川高校の12勝3敗と大差で勝利しており、今年度も再び、応援生徒が見ている前で大勝を果たす、閉会式で全校生徒による凱歌を披露する、という強い気持ちで試合に臨みました。

開会式後は綱引き競技が実施され、体育館を熱狂で包みました。男子は古高が2連勝を飾り、女子は1勝1敗の決定戦へもつれ込む大接戦。3年生12名による決定戦を築館が制し、まずは両校五分の争い、接戦の予感です。結果は、一進一退のまさに手に汗を握る展開となりましたが、かろうじて古川高校が9勝6敗と、3年連続で築館高校に辛勝する結果となりました。我々古川高校は、敵地築館において高らかに凱歌を歌い上げ、まさに古高が一丸となって讃え合うことができました。引き続き開催となる地区、県の高校総体に向けて、各部勢いをつけることができたとおもいます。



古高祭

今年度もコロナ以前の、「本来の古高祭」を、完全無制限で実施しました。模索しながらだった昨年度の経験から、さらに改良の加えられた、すばらしい古高祭となりました。一般公開当日は大変な数のお客さんに圧倒されながらも、大いに古高生パワーを大爆発させました。

今年度の古高祭では、「笑う古高生には福来たる」をテーマに、昨年度に引き続き古高祭オリジナルグッズの販売やステージ発表の「吹奏楽部」「合唱部」「クラスパフォーマンス」、バンドやダンスなど「有志団体発表」、「カラオケ大会」、さらには「模擬店による販売」など、異常なまでの盛り上がりとなりました。実行委員は進級前の2月からコツコツと準備を始め、当日まで大忙しでしたが、企画・運営やタイムスケジュール管理まで綿密に計画し、「コロナ以前」よりも盛り上がる古高祭を目指しながらも全く新しい形式の「全員参加型古高祭」を完成させることができました。次年度も大いに楽しみます。

体育祭

9月3・4日に体育祭が実施されました。こちらもほぼ例年通り、2日間での開催とし、1日目は球技の予選、2日目は球技の決勝と運動会競技を実施しました。昨年度に引き続き、開会式の準備体操時には恐怖の応援団が登場し、コミカルに踊りながら体を動かし和やかにスタートしました。各競技とも非常に熱が入り、レベルの高い試合が展開されました。多くの競技で3年生の活躍が目立ち、最後にかかる意気込みが伝わりました。最後の学校行事を意欲的に楽し

もうとする姿が、本当に印象的でした。なお、古高祭・体育祭実行委員の粋な計らいで、初の試みとなる「キャンプファイヤー」が校庭で実施され、見ている人の感動を誘いました。



文化祭ステージ発表



体育祭キャンプファイヤー

(3) 学校制服紹介

学校指定の制服はありません。

ただし、服装については、古高生としての自覚と良識に基づいて各自判断し、かりそめにも恣意・放縦・華美に流れるようなことはあってはなりません。

また、容儀を正すことは自己の人格を尊重し、気品を高尚にするものであり、礼節は自己の品位を高め、他に対する敬愛の発露であるから、これを軽視してはなりません。

(4) 施設紹介

平成26年南校舎が普通教室棟新校舎として落成しました。また、同年トレーニングルームも設置、令和3年には普通教室にエアコン、グラウンドには照明灯が設置され、生徒の利便性が図られています。北校舎の特別教室棟は昭和46年建設当時のままであり、今後、老朽化した校舎の刷新が待たれます。



4 在校生からのメッセージ

生徒会長 阿部 美斗さん (不動堂中出身)

本校生徒会執行部は令和6年10月に代替わりを行い、二年生10名、一年生6名の計16名の新体制で活動しております。今年の生徒会執行部は、生徒たちがより快適な学校生活を行えるようにするために、総合委員会という決定機関を用いて学校生活に変化をもたらそうと考えています。また、学年を問わず様々な生徒が交流できるようなイベントも開催できたらとも考えています。学習面については、ライバルと競い高め合っていけるような環境を学校に作りたいてと考えています。しかし、生徒会活動に関心を持って意欲的に参加していただける生徒が少ないのは昨年から続く古高の課題です。多くの生徒に積極的に参加してもらえるよう努力していく所存です。今年もどうぞ生徒会執行部をよろしくお願いいたします。

応援団長 津田 美紅さん (栗原西中出身)

長き伝統を持つ古川高校の団長として、その名に恥じぬよう、責任ある行動をしたい。そして、守るべき伝統と変えるべき伝統を判断し、後世にも伝わる形を残す活動を行っていく所存である。さて、私は皆さんに伝えたい事が2つある。1つ目は、「出る杭は打たれる。出過ぎた杭は打たれない」だ。周りの目を気にして挑戦しないなんて勿体無い。実現したいことに積極的に取り組んでほしい。2つ目は「環境に揉まれろ」だ。古川高校には様々な地域から、優秀な生徒が集まってくる。生活面や学習面でいろんな生徒、そして先生方と関わり、有意義な高校生活を送ってほしい。令和7年度の定期戦は、本拠地古川高校での開催となり、尚且つ四連覇が懸かっている。昨年以上の大勝を収めるため、「古高の誇り」を胸に、一丸となって戦い抜くことをここに誓う。